

上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
中間評価報告書（別冊）

令和元年5月

上田市

第4回上田市総合戦略推進協議会
上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 中間評価
(回答)

(1) 1-①地域経済雇用を牽引するものづくり産業の振興

上田市の補助金、助成金の各種施策について、それを活用する事業者が制度を認知していないということも多く、金融機関としてはできるだけ行政の各種施策を周知する形で協力してまいりたい。

新年度以降の新たな補助金メニューなどを教えてもらいたい。

(商工課)

毎年3月に国・県・市の施策説明会である「中小企業支援説明会」、企業訪問、商工団体・産業支援機関等を通じて補助金メニューや固定資産税の特例措置等の周知を図っております。しかし、委員御指摘のとおり各種施策の認知度は低いのが現状でありますので、是非金融機関におかれましても各種制度の周知にご協力いただきたく存じます。

新年度の拡充として、工場等用地取得事業、工場等設置事業について補助率、限度額の拡充、産金官連携雇用創出事業補助金・新技術等開発事業補助金の予算拡充を実施しております。

新設として、創業者がクラウドファンディングを活用して資金調達やテストマーケティングを支援する「クラウドファンディング活用支援事業」、小規模事業者向けの制度資金として小口事業資金を新たに設けております。

これら補助金メニュー等を多くの企業や個人事業者に活用していただきたく、市といたしましても周知の実施方法を検討していくと共に、金融機関、商工団体、産業支援機関等のご協力を是非お願いいたします。

(2) 1-②人材育成・雇用マッチングの拡充

高校卒業就業者に占める市内就職者の割合が年々下がっている理由は、大学進学率が伸びているということか。

(地域雇用推進課)

職業科を有する高校（市内3校）につきましても、進学率が伸びているという状況にはありません。

しかし、他地域から市内の高校へ入学・通学する生徒が増加している傾向にあり、卒業時に市外で就職をする生徒も増えていることが、高校卒業就業者に占める市内就職者の割合が年々下がっている理由の一つと考えられます。

当課としましては、この地域に住み、学ぶ高校生、学生や地域を離れ首都圏等の学校に進学した学生が、魅力ある地域企業の情報が得られる機会を設け、地域定着及びU I ターン就職の促進を図る取り組みを行ってまいります。

(3) 1-④農林業の稼ぐ力の創出

ヤマブドウ系ワイン用ぶどうの栽培研究について、昨年の総合戦略推進協議会の際にもヤマブドウはワインよりもジュースとして売り出す方が良いのではないかという意見が出たかと思うが、それに対する対応、経過について教えてもらいたい。

(農産物マーケティング推進室)

醸造、貯蔵に係る費用やリスク、酒類免許等の許認可を考慮し、ヤマブドウ系の希少性を強みとすれば、ジュースとしてもある程度の価格で販売できる(先進事例もあり、「ま

るこの夢のジュース」も高値で販売出来ている。)という信大農学部教授のアドバイスがあり、ジュースでの販売の可能性を検討していくことになったものです。

なお、土壌改良や排水対策を進めているものの、現状としては、生育不良であり、かつ、鳥獣害の被害を受けて昨年度は、ぶどうがほとんど収穫出来なかったため、現段階では、未だ可能性に留まっている状況であることから、今年度では、実食等を行い引き続き検討していきたいと考えております。

※まるこの夢のジュースとは、丸子地域西洋梨6次産業化プロジェクトで開発した商品であり、「減農薬、有機栽培」にこだわり栽培された希少性がある西洋梨を使用し、500ml 瓶 1,300 円以上で販売している。また、まるこの夢の主力商品はジャムで、140g 入 650 円で販売している。

(4) 1-④農林業の稼ぐ力の創出

東信地区で初の木質バイオマス発電所が稼働することから、地域産の木質バイオマスエネルギーの搬入、活用を検討するとあるが、利活用の難しい間伐材の投入はやむを得ないと考えるが、全国的には木質バイオマス発電施設の稼働を目的に皆伐される例などが問題になっており、木は材としての活用を第一に考えることが持続可能な林業に繋がると考える。是非、バイオマス発電による燃焼だけを考えるのではなく、材としての活用、燃料としての活用を適切に考慮して施策を展開していただきたい。

(森林整備課)

市内には松くい虫被害を受け、放置された松林が多く存在しております。これらの被害材を資源と捉え、木質バイオマスエネルギーとしての有効活用を進めてまいります。発電だけでなく多角的な利活用を推進してまいりたいと考えています。

また、「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が昨年制定され、本年度から各市町村へ譲与税が配分されることになりました。譲与税の活用方法として、手入れの行き届いていない森林の整備を最優先としていますが、木材利用の促進などにも活用できるものとなっておりますので、今後の林業振興に繋がるような施策を研究してまいります。

(5) 1-③若者等の多様な働き方の支援

創業促進支援事業について、創業支援を受けた後、制度上、事業を継続する義務はあるのか。

(商工課)

上田市創業促進支援事業補助金を受給する事業者が3年以上事業継続することを交付要件としています。

なお、事業継続は必ずしも、補助金を受給した地点に縛るものではなく、種々の事情で拠点を市内の別地点に移すことは妨げません。委員御指摘の問題意識である、安易な起業・創業を誘引するだけにはならないよう、市としても一定の要件を定めているところですが、市内の起業、創業を活性化する環境を整備しつつ、それら事業の安定的な継続を支援できるよう、今後も制度の改良、充実を検討してまいります。

(6) 2-②きめ細やかな出産・子育て支援推進

保育サービスの向上等は盛り込まれているが、保育士の労働環境改善に向けたテーマなどは入っていない。取り組むべきではないか。

(保育課)

保育士不足が深刻となる中で、保育所等における業務の ICT 化を推進することにより、保育士の業務負担軽減を図り、保育士が働きやすい環境を整備することは重要であると考えております。ICT 化の推進は、保育の質の向上にもつながる取り組みであり、児童の登降園管理や保育だより等のデータベース化などを行う保育業務支援システムの導入やタブレット端末の整備等について、今後検討してまいりたいと考えております。

(7) 2-③未来に繋がる特色ある教育の推進

ICT 機器の導入を進めているが、子ども達が危険な状態に陥る可能性もあるため、併せてしっかりとメディアリテラシー教育に取り組むことが必要である。長野市は、あらゆる機関が一緒になって子ども達のメディアリテラシーについてしっかり考えようという取組が進んでいる。また、メディアリテラシーを教育出来る人材の育成という観点も重要であるが、上田市は取組が遅れていると感じている。

(学校教育課)

各学校に情報教育主任の教員を選任するとともに、年 4 回会議を開催し情報モラル等について周知や情報交換を行っています。

また、市教委主催の校長会、教頭会においても情報モラルの徹底についてお願いをしており、小学校では昨年、中学校では今年度から教科化された「道徳」の授業においても、情報モラルについて学ぶようになっていきます。

さらに、上田市マルチメディア情報センターにもご協力いただき、教職員対象の研修会の開催や児童生徒・保護者対象の情報モラルの講演会への講師の派遣など、学校側のニーズに沿った支援に加え、PTAにおいても、学校ごとに保護者対象の研修会を開いたり、クラス単位で特別授業を行う等、教員・保護者・児童生徒の三者による取組も行っております。

(8) 2-①結婚につながる出会いの応援

内閣府の少子化対策白書の中でも、結婚意欲、交際意欲ともに、正規雇用者は高く、非正規雇用者は低いというデータが示されている。必ずしも出会いの場がないということだけが結婚数減少の原因ではないと思うので、結婚セミナー本槍ではなく、違う視点での対策が必要ではないか。

(移住交流推進課)

これまで実施した婚活セミナーでは、未婚者向けとして結婚への意識醸成や結婚することの意味、交流会での限られた時間の中で異性に選ばれるためのセミナーのほか、ファイナンシャルセミナーを実施し、結婚を叶えるための資金計画やライフプランの立て方等を学んできました。親向けとして、親と子と婚活事情の違い、子どもが結婚を意識するための親の接し方などのセミナーのほか親同士の情報交換を行っています。ボランティア等で相談を行っている相談員を対象としたセミナーでは、多様化する相談内容に対応するため、多種多様な相談を日々受けている結婚相談所に講師を依頼し対応方法を学び併せて相談員同士の情報交換を行っております。

非正規雇用者については、結婚後の生活を見据えた収入を得ることも重要であることから、関係所属とも連携して今後の事業について検討してまいります。

(9) 3-①地域資源を生かした知名度アップと交流促進

柳町の観光バス誘致などは民間企業の始めた取組を市、シルバー、観光協会に支援してもらっているところではあるが、民間企業が中心となって一生懸命誘客しているものなので、できるだけ市もバックアップや応援していただけるようお願いしたい。

また、旅の観光タクシーはあまり評判が良くない、実態を調査し、改善を図っていただきたい。

(観光課)

民間の皆様の積極的な取組によりまして、昨年については年間約 700 台の観光バスが柳町にお越しいただいており、連日多くの観光客が訪れ、活気に溢れておりますので、市全体としても波及効果が期待されるなど観光誘客に大きく寄与されているものと思っております。

このような中、柳町に訪れた観光客のおもてなしとして、武将隊による観光ガイドを実施するなど、これまでも(一社)信州上田観光協会と連携した取組を行ってまいりました。

今年の「上田城千本桜まつり」においては、「柳町等をコースに入れた団体バスに対する特典事業」として、上田城跡公園芝生広場で専用のラウンジスペースを設け、訪れた観光客の皆様へ地酒や甘酒の試飲等のおもてなしを実施し、上田城跡公園のみに立ち寄る団体バスとの差別化を行いました。

今後も柳町の皆様との連携を図りながら、引き続き誘客促進に努めてまいりたいと考えております。

「旅の観光タクシー」につきましては、(一社)信州上田観光協会の事業として平成 25 年から実施してきており、利用者数では大河ドラマ真田丸放送年の平成 28 年度をピークとなっているのが現状であります。

今後は、魅力的なコンテンツをコースに取り入れるため、今年秋にオープン予定の「シヤトー・メルシャン 椀子ワイナリー」を活用したメニューを造成するなど、これまでの検証を踏まえながら事業展開を図ってまいりたいと思っております。

(10) 3-①地域資源を生かした知名度アップと交流促進

外国人観光客の誘客の取組であるが、多言語のパンフレットなどは、観光会館等市の関連施設でしか配布されていないのではないかと。柳町などでも外国人観光客は多く、せっかく製作した多言語パンフレットなので、是非民間の店舗等にも配分、配置いただければ良いと思う。

(観光課)

外国語の観光パンフレットについては、(一社)信州上田観光協会において現在、5 言語(英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語、タイ語)のパンフレットを製作しております。海外での観光キャンペーンをはじめ、同協会会員の皆様を中心とした利活用を図っていただいております。

また一昨年、指差し会話帳(「上田市ポイント&スピークハンドブック」)を製作し、同ハンドブックの利用方法を含めた外国人観光客に対する接遇講座を開催するなど、受け入れ基盤整備事業を行ってきております。今後、現在のパンフレットを民間の店舗等で有効に活用いただくことはもとより、当市の魅力的なコンテンツをより分かりやすく表示させる等、パンフレットのリニューアル化も検討しながら、外国人観光客の目線に沿ったさらなる効果的なPRを図ることとします。

(11) 3-①地域資源を生かした知名度アップと交流促進

さいたま市と連携したシティプロモーションの取組について、さいたま市でイベントを開催し、発酵4姉妹として参加した。参加者の3分の2ほどが行政関係者で民間は3分の1だったと聞いた。お金をかけ、さいたま市にアピールするのであれば、行政関係者だけでなく一般の参加者にも多く参加いただけるイベントとしていくことが望ましいのではないかと。

(広報シティプロモーション課)

上田の人・食・観光資源などを地元民が直接PRする場として、今年3月に開催いたしました「上田ナイト in さいたま」には、さいたまを中心に首都圏に在住する53人の方々にご参加をいただきました。

また、本イベントは、さいたま市との連携事業であったことから、さいたま市長をはじめ4人の行政関係者が参加者に含まれております。

このイベントは、上田市に興味・関心がある方々に対して、直接地域の魅力をPRできる良い機会となったことから、今後も、市民の皆様にもご協力をいただく中で、首都圏に向けたプロモーションとして、広く一般参加を募り開催していきたいと考えております。

(12) 3-①地域資源を生かした知名度アップと交流促進

稼ぐ観光、外国人観光客誘致という点、金融機関から見ていると、この上田地域はキャッシュレス化がなかなか進んでおらず、政府の方でも推進しているが民間企業にとってもクレジット用端末の整備に費用がかかる現実がある。上田市内のキャッシュレス化について市からもいろいろな告知や対策に力を入れていただきたい。

(観光課)

訪日外国人の誘客に向け、国でもキャッシュレス化による外国人観光客のニーズに応えるための施策を推進しておりますので、本市といたしましても重要な課題であると認識しております。

このような中で、観光会館1階売店においては、今年6月から「Origami Pay (おがみペイ)」を導入し、キャッシュレス決済化を図る予定であります。市内のキャッシュレス化は十分に行き届いていないことが現状でございますので、商工会議所や商店街組合等の関係団体との連携した検討に取り組んでまいりたいと考えております。

(13) 3-①地域資源を生かした知名度アップと交流促進

上田のタクシーは禁煙車であってもタバコ臭いという印象。乗車席は禁煙のため、運転手が吸っている。観光面でもマイナス影響があり、市とタクシー業界一丸となって改善を目指すべき。

(観光課)

現在、喫煙率が低くなっていることや、訪日外国人における禁煙志向の高まりなどから、全国的に宿泊施設や公共施設での禁煙や分煙が広がっており、タクシーにおいても禁煙のニーズは高まっているものと思われます。

特に禁煙車内でのタバコ臭による不快感等については、観光客にとってはマイナスイメージになるものですので、観光地上田として観光客に喜ばれる対応が必要であると思っております。今後、お越しいただく観光客への重要な取組みの一環として捉えまして、(一社)信州上田観光協会とも連携し官民一体となった対策等について検討してまいります。

(14) 3-②移住相談、受入体制のワンストップ化促進

移住、空き家バンクの関係になるが、今は離婚率が高くなっており、シングルマザーも多いため、空き家等を活用してシングルマザーに焦点を当てた移住促進策を検討してはどうか。

(移住交流推進課)

空き家バンク取り扱い物件については、個人所有の築年数が古い物件や水回り等にリフォームの必要な民間流通に載りにくい売買物件が主なものとなっています。

移住促進策としては、移住の際に最も重要な仕事面について、シングルマザーを含む移住希望者への職業紹介を地域雇用推進課などと連携し、引き続き行ってまいります。

(15) 3-②移住相談、受入体制のワンストップ化促進

移住促進と観光という話は近いものがあると思うが、市の魅力を伝える上で、例えば自然エネルギーの活用事例など観光面以外の魅力の活用、発信という視点も重要ではないか。

(移住交流推進課)

観光面以外の魅力の活用・発信という視点が重要なのはもちろんですが、移住希望者が上田市のどこに魅力を感じるかは人それぞれあり、移住促進に向けて行っている移住相談会では、観光面というよりも移住希望者が気にしている点への回答や主に日々の暮らしがどのようなものかイメージできるような情報提供を行っています。

自然エネルギーの活用事例として、薪ストーブやペレットストーブ、太陽光パネルなどの設置への補助があることなどの情報提供も引き続き行ってまいりたいと考えております。

(16) 4-②健康寿命を延伸する施策の推進

健康づくり応援サイト・アプリ構築事業は「うえだ家族」のことで良いのか。もし違うなら、周知に当たってはそれぞれのアプリの利点を明確にし、その辺り勘違いが起きないように配慮いただきたい。アプリが乱立すると、市のアプリをいくつもスマホに入れなければならない。一体化など市民の利便性にも配慮が必要と考える。

(健康推進課)

健康づくり応援サイト・アプリ構築事業は、「うえだ家族」とは別のサイト・アプリとなります。まず、サイトにつきましては、現在の市ホームページの健康関連トップページをより見やすいデザインに刷新したものであります。

また、市健康づくり応援アプリ「うえいく」につきましては、市民の皆様がより手軽に楽しくウォーキングに取り組んでいただくための「専用アプリ」として開発したものであり、他のアプリの機能と一体化して開発することは極めて困難であります。

アプリは本来、一つの目的を持った専用のプログラムにより機能させるものであることから、他の機能を付加するようなこととした場合には、処理スピードの著しい低下やアプリ自体が全く機能しなくなるといったトラブル発生の可能性が考えられます。結果的には、トラブルが多発し機能が不安定なアプリは、利用者が離れ、アプリ自体の存在価値がなくなることが懸念されますので、機能低下につながることは絶対に避けなければなりません。

今後、市民の多様なニーズを受けて、様々なアプリの構築が求められることが予想されますが、より多くの市民が安心して利用できるアプリの構築と運用を目指し、市民の生活の質の向上につながるよう、取り組んでまいりたいと考えております。